I-JAS にみるフィラーの比較
－ ベトナム人学習者、タイ人学習者、日本語母語話者の場合 －

萩原　孝恵*　　池谷　清美**

A Comparative Study of Fillers using the data of I-JAS: Case of Vietnamese Learners, Thai Learners and Japanese Native Speakers

HAGIWARA Takae*　　IKETANI Kiyomi**

Abstract

The purpose of this study is to examine the differences in fillers used by Vietnamese learners of Japanese, Thai learners of Japanese and Japanese native speakers, using International Corpus of Japanese as a Second Language (I-JAS). The study analyzed the data of 50 Vietnamese learners, 50 Thai learners and 50 native Japanese speakers drawn from the I-JAS in the following three points: (1) actual filler usage patterns of Vietnamese learners, Thai learners and native speakers, (2) relations between different proficiency level usage and the different type of task, (3) filler usage patterns of native speakers, focused on *ee, eeto* and *anoo*. The results revealed significant differences of performance between Vietnamese and Thai learners. Furthermore, the study found that the scores of J-CAT and SPOT are directly proportional to their filler usage. We also found different usage of fillers according to the type of task in the performance of native speakers, but not in the performances of these two groups.

キーワード：ベトナム人日本語学習者、タイ人日本語学習者、日本語母語話者、フィラー、I-JAS
key words：Vietnamese learners of Japanese, Thai learners of Japanese, Japanese native speakers, Fillers, I-JAS

1．はじめに

フィラーという用語は元々はBrown（1977）の用語で発言権維持のために間をつなぐための言葉とされていたものである。使用頻度が高いにもかかわらず、非母語話者に対する日本語教育においては、初級レベルから会話文に出てくるものの、学習項目としては取り上げられてはいないようである。広く使われている『みんなの日本語 初級Ⅰ』では、第2課の会話に「あのう」が、第22課の練習Cに「えーと」が、（1）（2）のように提示される。

（1）サントス：こんにちは。サントスです。これから　おせわになります。どうぞよろしくお願いします。
山田一郎：こちらこそ　よろしくお願いします。
サントス：あのう、これ、コーヒーです。どうぞ。
山田一郎：どうも　ありがとうございます。
（『みんなの日本語 初級Ⅰ』第2課）

* 山梨県立大学　国際政策学部　国際コミュニケーション学科
Department of International Studies and Communications, Faculty of Glocal Policy Management and Communications, Yamanashi Prefectural University

** チュラーロンコーン大学　文学部　東洋言語学科
Department of Eastern Languages, Faculty of Arts, Chulalongkorn University

（2）A：田中さんにもらったカタログはどこにありますか。
B：えーと、あの机の上にありますよ。
A：あ、そうですか。どうも。
（『みんなの日本語 初級Ⅰ』第22課）

この他の初級テキストの会話文に出てくるフィラーも同様で、練習項目にはない。練習として取り上げられているものは、石黒（2011：151-160）であるが、そこでは「エー」「デ」「マ（ー）」「ナンカ」「ソーデスネー」を練習項目として取り上げ、学習者には「増やすように指導した方が聞き手に聞きやすい話し方」になると指摘している（石黒：160）。定延（2005）は日本語母語話者は子供の頃からフィラーの使用を間違えるということはないとしているが、一方、日本語非母語話者について野田（2015）は、日本語を話す能力が高くない人にも高い人にも、感動詞の運用の間違いがみられることを指摘している。それでは、日本語非母語話者と日本語母語話者とではフィラーの使用がどのように異なっているのであろうか。また、同じ日本語非母語話者であっても、日本語非母語話者の母国語とする言語による違いはあるのであろうか。本研究の目的は、発話中に観察されるフィラーに焦点を当て、ベトナム人学習者・タイ人学習者・日本語母語話者を対象に、それぞれの使用傾向と特徴、さらに日本語母語話者の使用を指標としたフィラーの機能を分析し記述しようとするものである。具体的には、以下の3点を課題として検討する。

【1】フィラーの使用実態と使用傾向
【2】発話タスクの種類および学習者の日本語習熟度との関係
【3】日本語母語話者の使用にみる「えー」「えーと」「あのー」の機能

2．先行研究

日本語のフィラーの研究としては、大きく日本語母語話者のフィラーを分析したものと非母語話者のフィラーの分析をしたものとに分けられる。「エエト」と「アノ（ー）」の分析を行った定延・田窪（1995）、「ああ」「はい」などの応答詞・感動詞を分析した田窪・金水（1997）、多様な種類の談話から抽出したフィラーを分析した山根（2002）などが母語話者のフィラーを分析したものとしてあげられる。

非母語話者のフィラーを分析したものは、いろいろとあるが、I-JASを用いて日本語学習者のフィラーを分析したものには、小西（2018）、萩原・池谷（2019、2021）、村田（2022）がある。小西（2018）は、日本語学習者のフィラーの使用を習熟度別、タスク別に分析している。また、学習者のフィラーを日本語母語話者のフィラーの使用状況と比較し、母語話者はタスクによりフィラーを使い分けているが、学習者にはそのような使い分けはみられないことを指摘している。萩原・池谷（2019）ではベトナム人学習者と日本語母語話者、萩原・池谷（2021）ではタイ人学習者と日本語母語話者のフィラーの使用をそれぞれ比較し、その違いを述べている。村田（2022）では、ドイツ語母語話者を対象に海外で学ぶ日本語学習者と母語話者のフィラーの使用を比較しており、両者の用例も調べ、同じ形式のフィラーであっても母語話者が使っているものと学習者の使っているものでは機能が異なっている場合もあることを指摘している。学習者の使っている「なんか」は間つなぎとしての機能で使われており、フィラーではなく代名詞として使っている例をあげている。

3．調査概要

3．1　「日本語学習者コーパス」I-JASの概要

本研究では、国立国語研究所が開発した中納言[1)]を利用して検索することができる「日本語学習者コーパス」（以下、I-JAS）[2)]を調査データとする。I-JASは、12言語（英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・トルコ語・ベトナム語・ハンガリー語・タイ語・インドネシア語・ロシア語）の日本語学習者1,000人（海外学習者850人、国内学習者150人）と日本語母話者50人、合計1,050人のデータが収められた多言語大規模コーパスである。参加した日本語学習者1,000人は、学習環境によって、a）海外の教室環境学習

者、b）国内の教室環境学習者、c）国内の自然環境学習者に分類されている。また、同じタスクを日本語母語話者50人にも実施しており、日本語学習者と日本語母語話者のデータを比較することができる。さらに、個々の学習者の日本語習熟度の判定結果やフェイスシートも公開され、様々な観点からのアプローチを可能にしている。

本研究の目的は、発話中に観察されるフィラーに焦点を当て、ベトナム人学習者・タイ人学習者・日本語母語話者を対象に、それぞれの使用傾向と特徴、さらに日本語母語話者の使用を指標としたフィラーの機能を分析し記述しようとするものである。これらの課題を明らかにするために、本研究ではI-JASを使用し、上記12言語の中から、ベトナム語を母語とする海外学習者（以下、ベトナム人学習者）50人と、タイ語を母語とする海外学習者（以下、タイ人学習者）50人と、日本語母語話者50人の発話データを対象に検討する。

3．2　I−JASデータと本調査対象

表1は、I-JASにおける調査の流れである。本研究は、前述したように、発話にみられるフィラーの出現に着目していることから、表1の水色部分の発話データを調査対象として設定する。併せて、フィラーの使用に習得過程、すなわち中間言語的な使用がみられるのかについても検討するため、黄色部分の習熟度調査（SPOT、J-CAT）の結果も参照する。

I-JASには、対面による6種類の発話タスクと、非対面による2種類の作文タスク（任意）のデータが収められている。本調査で使用するのは、前者の対面による発話タスクで、具体的には下記1）～ 5）の5種類である。

1）ストーリーテリング1：「ピクニック」5枚の絵を見て話すタスク
2）ストーリーテリング2：「鍵」4枚の絵を見て話すタスク
3）対話：話題は全15項目で、調査者と30分程度の会話を行うタスク
4）ロールプレイ1：「依頼」アルバイトの日数を減らしてほしいと店長に頼むタスク
5）ロールプレイ2：「断り」アルバイトの仕事内容の変更を頼まれ店長に断るタスク
6）絵描写：1枚の絵を見て自由に話すタスク

なお、6）についてはタイ人学習者には実施されていないため、本調査から除外している。[3)]

表1　I-JASの調査データと本調査対象
（迫田ほか［編］2020：34表5、表中色付筆者）

手順	作業	所要時間（分）
調査説明		
1	調査の説明・同意書	5
2	フェイスシートの確認	5
本調査		
1	ストーリーテリング（2タスク）	10
2	対話	30
3	ロールプレイ（2タスク）	30
4	絵描写	5
5	ストーリーライティング（2タスク）	20
習熟度調査		
1	SPOT	20
2	J-CAT（Can-doを含む）	60
3	謝礼の対応	10

３．３　I−JASの習熟度調査結果と本調査対象

ここで、3. 2の表1の習熟度調査（黄色）の結果を基に、ベトナム人学習者とタイ人学習者の日本語レベルを確認しておく。表2は、迫田編（2020：85）の表1・表2を参照して作成したものである。表中、得点者数の多いところに網掛けをしている。

まず表2左側のJ-CATの結果からみていくと、ベトナム人学習者の日本語レベルは中級（25人、50%）が最も多く、次が中級後半（18人、36%）であるのに対し、タイ人学習者の日本語レベルは中級後半（23人、46%）が最も多く、次が中級（18人、36%）であることから、参加したタイ人学習者の方が1段階上の日本語レベルを有している集団であることがわかる。表の下に記載した得点範囲をみても、最低点・最高点ともにタイ人学習者の方が1.2倍程度得点率が高い。次に表2右側のSPOTの結果をみると、ベトナム人学習者では中級（28人、56%）が最も多く、次が初級（22人、44%）であるのに対し、タイ人学習者では中級（41人、82%）が8割を超え、初級はベトナム人学習者の3分の1以下である。得点範囲をみても、最低点・最高点ともにタイ人学習者の方がレベルが1段階高い。参考までに、表3にSPOT90の得点解釈を提示する。なお日本語能力試験との対応については、表3下のアスタリスク（＊）に注意書きがあるため、あくまでも一つの目安として参照すると、参加したベトナム人学習者はN4・N5レベルの初級であるのに対し、タイ人学習者はN2・N3レベルの中級であることが示唆される。この結果は、フィラーの使用に習得過程による差異があるのか、中間言語的な出現がみられるのかを考察する上での検討資料とする。

３．４　調査手順

本研究で調査するのは発話に伴うフィラーである。フィラーを抽出するために使用したI-JASは、中納言2.4.5データバージョン2020.03である。以下 1）～ 4）が調査手順である。

表2　J-CATとSPOTの結果：ベトナム人学習者50人、タイ人学習者50人（単位：人）

J-CAT	ベトナム人学習者		タイ人学習者	
レベル	度数	%	度数	%
1.初級（0～100点）	0	0.0	0	0.0
2.中級前半（101～150点）	4	8.0	1	2.0
3.中級（151～200点）	25	50.0	18	36.0
4.中級後半（201～250点）	18	36.0	23	46.0
5.上級前半（251～300点）	3	6.0	6	12.0
6.上級（301～350点）	0	0.0	2	4.0
7.日本語母語話者相当（351～400点）	0	0.0	0	0.0
最低点～最高点	（118 ～ 275）		（141 ～ 331）	

SPOT	ベトナム人学習者		タイ人学習者	
レベル	度数	%	度数	%
1.入門（0～30点）	0	0.0	0	0.0
2.初級（31～55点）	22	44.0	6	12.0
3.中級（56～80点）	28	56.0	41	82.0
4.上級（81～90点）	0	0.0	3	6.0
	（37 ～ 76）		（49 ～ 87）	

表3　SPOT90の得点解釈（筑波日本語テスト集TTBJより）[4)]

合計点	能力判定 **	説明	日本語能力試験との対応 **
0～30	入門	日本語を学習したことがほとんどない。	なし
31～50	初級	ゆっくりであれば日常生活の基本的な日本語を理解できる。	N4、N5
56～80	中級	自然な話速度で日常的な場面の日本語がある程度理解できる。	N3、N2
81～90	上級	自然な話速度で幅広い場面の日本語が理解できる。	N1

* 得点の解釈に関する目安です。絶対的な基準ではありません。

** 日本語能力試験との対応は，皆さんの合格を約束するものではありません。あくまで目安として理解してください。

1）I-JASの検索画面で、「短単位検索」→「品詞指定検索」を選択、検索フォームで「品詞」の「中分類」が「感動詞・フィラー」を選択し、実行した。
2）3.2に示した1）～5）の5種類の発話タスクを一つずつ指定した上で、言語環境（ベトナム語／タイ語／日本語母語話者）をそれぞれ選択し、フィラーを抽出した。
3）抽出したフィラーは種類ごとに出現度数を集計した。同時に各用例に目を通し、手作業でも確認した。
4）発話タスク・言語ごとにデータを整理し、分析した。

なお、筆者らは「なんか」もフィラーと捉えているが、I-JASでは「なんか」は助詞副助詞に分類されているため、今回の調査からは除外している。

4．調査結果と考察

4．1　発話タスクの種類とフィラー

表4は、発話タスク別にベトナム人学習者・タイ人学習者・日本語母語話者のフィラーの使用実態を一覧にしたものである。発話タスクは、3.2で示した5種類の発話タスクで、表中の「ST1：ピクニック」が1）のストーリーテリング1、「ST2：鍵」が2）のストーリーテリング2、「I：対話、30分」が3）の対話、「RP1：依頼する」が4）のロールプレイ1、「RP2：断る」が5）のロールプレイ2に該当する。表4では、これらの5種類の発話タスクで抽出されたフィラーの中で、出現頻度が高かった上位3位までのフィラーを上段に、フィラーの種類と総出現度数を下段に、左からベトナム人学習者、タイ人学習者、日本語母語話者の順に調査結果を示している。なおI-JASではタスクの種類の観点から5種類と分類しているが、本研究では当該タスクを発話形態の観点から、ⅰ.独話：ST1、ST2（緑色）、ⅱ.インタビュー：対話（黄色）、ⅲ.ロールプレイ：RP1、RP2（水色）の3種類にまとめ、それぞれのタスクでどのようなフィラーが使用されたのかを検証する。

表4から、ベトナム人学習者・タイ人学習者・日本語母語話者のフィラーの使用傾向をまとめると、以下のようになる。

【ベトナム人学習者の使用傾向】

- すべてのタスクにおいて「あー」の使用率が高く、およそ60%が「あー」であった。
- 独話（緑色）では「えー」「んー」が「あー」の次に多かったが、会話相手とのやりとりが要求されるインタビュー（黄色）とロールプレイ（水色）では「んー」「えーと」が次に多かった。

表4　発話タスク別フィラーの使用実態
（ベトナム人学習者・タイ人学習者・日本語母語話者）

発話タスクの種類	ベトナム人学習者（50人）	タイ人学習者（50人）	日本語母語話者（50人）
ST1: ピクニック	1.あー59.0%　2.えー　3.んー	1.えーと36.1%　2.あー　3.えー	1.えー69.3%　2.えーと　3.と
	12種類、741	10種類、354	7種類、264
ST2: 鍵	1.あー64.1%　2.えー　3.んー	1.えーと35.4%　2.あー　3.えー	1.えー69.3%　2.えーと　3.と
	11種類、830	13種類、331	8種類、231
I: 対話, 30分	1.あー59.0%　2.んー　3.えーと	1.えーと34.0%　2.あー　3.んー	1.あの39.7%　2.えーと　3.その
	24種類、10994	28種類、7734	19種類、5276
RP1: 依頼する	1.あー59.0%　2.んー　3.えーと	1.えーと36.9%　2.あー　3.あの	1.あの48.6%　2.えーと　3.えー
	15種類、1244	14種類、712	9種類、453
RP2: 断る	1.あー59.0%　2.んー　3.えーと	1.えーと36.1%　2.あー　3.んー	1.あの43.2%　2.あー　3.えー
	17種類、1149	14種類、696	10種類、391

- フィラーの種類は合計79種類で、タスクによってばらつきはあるものの、タイ人学習者・日本語母語話者と比べると多様である。
- フィラーの出現度数は、すべてのタスクにおいて3グループの中で最も多く、タイ人学習者のおよそ2倍、日本語母語話者のおよそ3倍の使用が確認された。

【タイ人学習者の使用傾向】

- すべてのタスクにおいて「えーと」が最も多く、次が「あー」であった。1位の「えーと」は36％程度、2位の「あー」は23％程度使用されていた。
- 独話（緑色）では「えーと」「あー」「えー」、インタビュー（黄色）とロールプレイ「断る」（水色）では「えーと」「あー」「んー」、ロールプレイ「依頼する」（水色）では「えーと」「あー」「あの」が次に多かった。
- フィラーの種類は合計79種類で、タスクによってばらつきはあるものの、ベトナム人学習者同様に多様なフィラーが観察された。
- フィラーの出現度数は、いずれの発話タスクにおいても、ベトナム人学習者より少なく、日本語母語話者より多かった。

【日本語母語話者の使用傾向】

- タスクによって、フィラーの使用傾向が異なっていた。
- 独話（緑色）では「えー」「えーと」「と」、インタビュー（黄色）では「あのー」「えーと」「その」、ロールプレイ「依頼する」（水色）では「あの」「えーと」「えー」、ロールプレイ「断る」（水色）では「あの」「あー」「えー」であった。
- フィラーの種類は合計53種類で、ベトナム人学習者（79種類）、タイ人学習者（79種類）と比べると7割弱の使用であった。タスクの中でフィラーの種類が多かったのは、インタビューで、他のタスクの2倍程度の種類が観察された。
- フィラーの出現度数は、いずれのタスクにおいても学習者に比べて少なく、ベトナム人学習者の2分の1から3分の1程度、タイ人学習者の70％程度であった。
- 母語話者はタスクによるフィラーの使い分けがみられる。絵を見て説明しなければならない独話のタスクでは「えーと」が、会話相手とのやりとりが要求されるインタビュー（黄色）とロールプレイ（水色）では「あのー」が1位であった。ただし、ロールプレイでは、場面によってフィラーの使い分けが示唆された。依頼場面では、「あのー」の次に「えーと」が多く、断る場面では「あのー」の次に「あー」が多かった。

定延（2016：166）は、フィラーの使用には「無秩序ではなく決まったパターンがあり、母語話者はそのパターンを幼少時から踏み外さない」「誤用不可能」と指摘している。例えば「1234足す2345は?」と尋ねられたら「えーと、3579」と言えても「あの（ー）、3579」と言うのは不自然であるというものである（定延・田窪1995：83）。定延・田窪（1995）が示したこの例は、日本語母語話者のフィラーの使用が指標となることを示している。そこで、4.2以降では日本語母語話者の使用傾向を運用パターンと捉え、タスクごとに分析していく。

4．2　独話で観察されたフィラー

ストーリーテリングは説明・描写が求められる独話タスクである。ここでは独話で観察されたフィラーの使用傾向を可視化したものを図1-1～1-6に示し検討する。

まず図1-3・1-6で日本語母語話者の使用をみてみると、日本語母語話者の独話では「えー」の出現率が約70％と非常に高く、続く「えーと」「と」の上位3位までのフィラーで90％を超えることから、独話におけるフィラーの使用傾向が示唆される。しかし、用例を一つずつ確認してみると、実際には日本語母語話者の独話にフィラーはほとんど出現せず、代わりに接続詞や副詞が使用され、結束性のある談話構造がみられた。「えー」

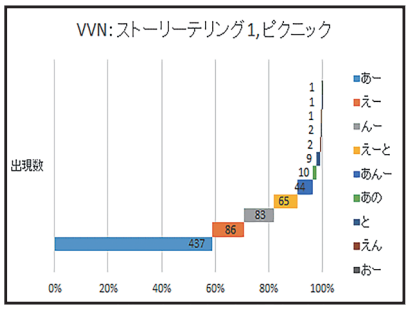

図1-1　ベトナム人学習者ST1

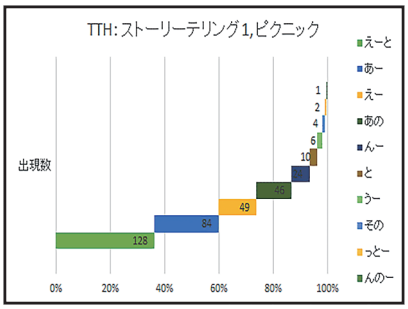

図1-2　タイ人学習者ST1

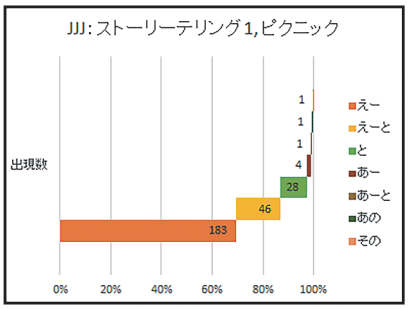

図1-3　日本語母語話者ST1

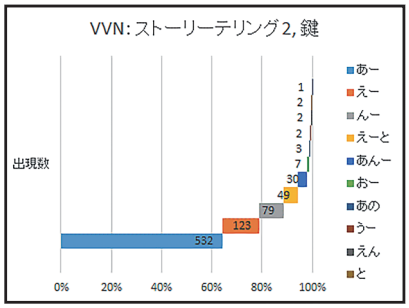

図1-4　ベトナム人学習者ST2

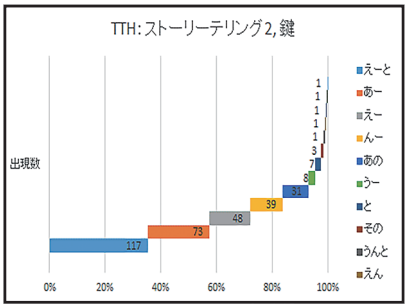

図1-5　タイ人学習者ST2

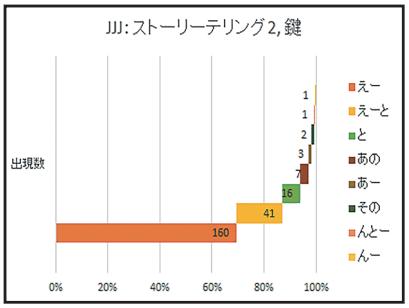

図1-6　日本語母語話者ST2

「えーと」の出現は発話頭で、「えー」は間つなぎでの使用が使用率に影響したものだった。

次に図1-1・1-4でベトナム人学習者、図1-2・1-5でタイ人学習者の使用傾向をみてみる。ベトナム人学習者の場合には「あー」「あんー」が説明・描写をする際の始めに現れるが、タイ人学習者の場合には「えーと」で説明を始める傾向がみられた。これが日本語母語話者の使用であれば、定延（2016）のいうように「誤用不可能」と捉えることができるが、ベトナム人学習者の「あんー」はそもそも日本語のフィラーには存在しないため、間つなぎとして不自然さがある。また「あー」については、ベトナム人学習者だけでなく、タイ人学習者にも使用される傾向がみられたことから、間つなぎの際に使用される中間言語的な位置づけのフィラーと捉えることができる。

4．3　インタビューで観察されたフィラー

インタビューは会話相手とのやりとりが求められるタスクである。ここではインタビューで観察されたフィラーの使用傾向を図2-1 ～ 2-3に示し検討する。

まず図2-3で日本語母語話者の使用をみてみると、日本語母語話者では「あの」の出現率が40％と最も多かった。定延（2005：36）は、「あの」は「えーと」に比べて「冒頭に加わることで丁寧さが増すことが多い」と述べている。定延（2005：36）の例をあげると、「あのー、ちょっといいですかー」と「えーと、ちょっといいですかー」の違いについてで、「えーと」を使うと「強引で、偉そうな印象を与えがち」になると説明されている。

これに対し、図2-2のタイ人学習者の場合には対話においても「えーと」が多いことが特徴である。「えーと」は「心内作業に手間取っている場合全般に広く発せられる」と定延（2005：37）は説明している。したがって、話す内容を考えているという状況での使用は適切であるが、対話における丁寧さには欠ける使用となるのが「えーと」ということになる。

図2-1のベトナム人学習者の「あー」「んー」は、松田（2016：228）を援用すると「日本語力が不十分で、適切な表現の産出にかかる負荷が強いため、何らかの音声を発して間をつないでいる」も

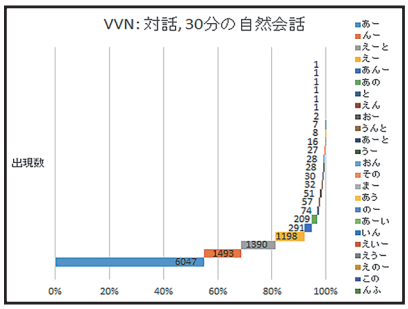

図2-1　ベトナム人学習者Ⅰ

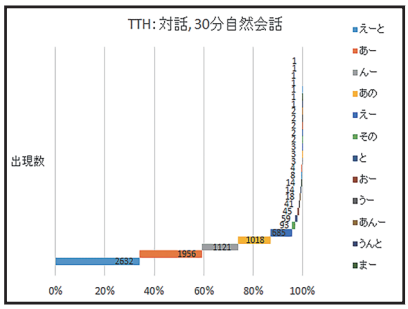

図2-2　タイ人学習者Ⅰ

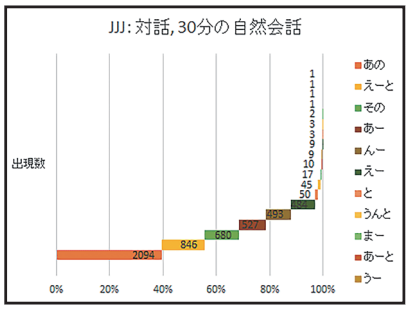

図2-3　日本語母語話者Ⅰ

のと解釈できる。3.3でベトナム人学習者とタイ人学習者には日本語レベルに1段階の違いがあることを指摘したが、J-CATとSPOTによって測定された日本語の習熟度は、こうしたフィラーの使用にも違いがみられることを本結果は示した。

4．4　ロールプレイで観察されたフィラー

ロールプレイも、インタビュー同様に会話相手とのやりとりが求められるタスクである。ここではロールプレイで観察されたフィラーの使用傾向を図3-1～3-6に示し検討する。

まず図3-3・3-6で日本語母語話者の使用をみてみると、いずれのロールプレイにおいても「あの」の出現率が45%程度と最も多かった。4.3で述べたように、「あの」を使用することで丁寧さを醸し出す効果があること、特に依頼場面での冒頭の「あの」は参加した日本語母語話者が意識的に使用しているのか無意識なのかは別としても、「あの」が発揮するコミュニケーション上の効果を認識していると解釈できる結果が示された。ただし、「あの」の次に使用が多かったフィラーに着目してみると、求められるタスクによる使い分けの可能性が示された。例えば、「依頼する」タスクでは「えーと」が使用されていたのに対し、「断る」タスクでは「あー」の使用が多かった点である。前述したように定延(2005: 166)は、フィラーの使用に関して母語話者は「誤用不可能」と指摘している。このことから、依頼する内容を自ら説明しなければならない状況で観察される「えーと」の使用に対し、断る状況ではいったん「あー」というフィラーを挿入してから発言するという運用パターンが示唆された。観察された「あー」のパターンは、「あー」と言って必ずしも肯定的に受けとめているわけではないとしても相手の発言をいったん受けとめた・理解したという使用と、「あー」と言ってから言いにくいことを伝えるといった使用であった。こうした使用傾向から、日本語母語話者は場面や状況に応じてフィラーを使い分け、フィラーを通して言葉にならないメッセージを伝えていることが用例を通して明らかになった。

これに対し、図3-1・3-4のベトナム人学習者の場合には、ロールプレイのタスク内容に関係なく「あー」「んー」「えーと」の使用が観察された。インタビューでも「えーと」が同様に観察されたことから、ベトナム人学習者の場合には、対話形式で「えーと」が使用される傾向がみられた。一方、ベトナム人学習者より1段階高い日本語レベルにあると想定されるタイ人学習者の場合には、図3-2・3-5にみられるように、「えーと」「あー」はロールプレイのタスク内容に関係なく使用されていたが、「依頼する」場面では「あの」が観察された。依頼場面での「あの」は日本語母語話者に最も多く使用されていたフィラーであることから、タイ人学習者のフィラーの使用が日本語母語話者の使用に近づいていることが示唆された。本結果は、J-CATとSPOTによる日本語習熟度をフィラーの習得状況から検証する結果となったといえる。

4．5　ベトナム人学習者・タイ人学習者・日本語母語話者それぞれのフィラーの考察

定延（2005:42）は、「フィラーを理解するには、コミュニケーションと心内行動という2つの視点

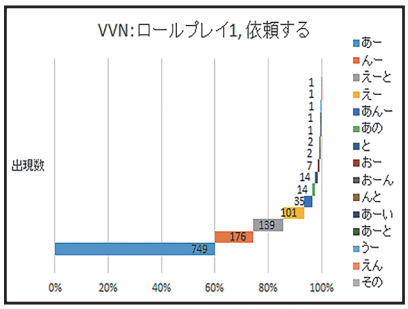

図3-1　ベトナム人学習者RP1

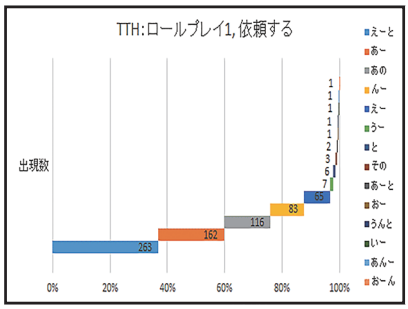

図3-2　タイ人学習者RP1

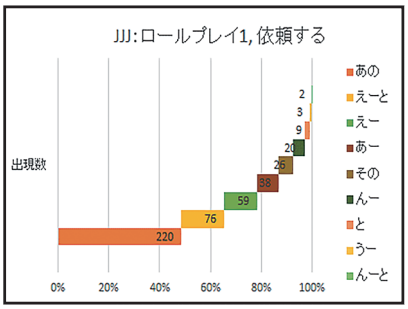

図3-3　日本語母語話者RP1

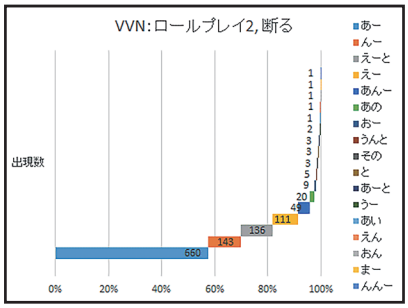

図3-4　ベトナム人学習者RP2

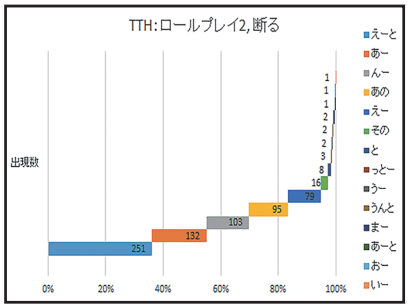

図3-5　タイ人学習者RP2

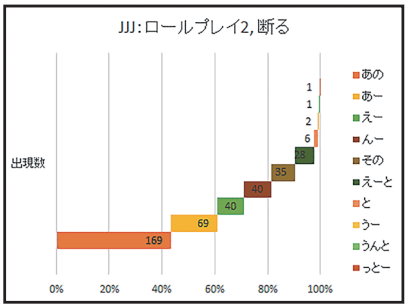

図3-6　日本語母語話者RP2

がともに必要である」と述べている。定延(2005)は「あの」を例に、この2つの視点を以下のように説明している。

> 会話の中で「あのー」と言う話し手は、会話相手とのやりとりの中で、「話し方を検討している」という自分の心の状態を（偽りの状態であれ本当の状態であれ）相手にあからさまにしている、というのが、コミュニケーションと心内行動を踏まえた考え方である。
>
> （定延2005：42-43）

金村・松田（2020：316）は、ベトナム人学習者のフィラーについて「焦れば焦るほど」多くなり、「同じフィラーを《あー、あー、あー…》と何度も繰り返し」、「語中や助詞の前などの区切りの悪いところ」に出現すると説明している。これは前出した松田（2016：228）の、「日本語力が不十分で、適切な表現の産出にかかる負荷が強いため、何らかの音声を発して間をつないでいる」からであると判断することができる。そして、このようなフィラーは言語に関係なく、習得段階にある学習者全般に当てはまる特徴であると考えられ、タイ人学習者のフィラーも例外ではないだろう。そこで、こうした学習者に観察されるフィラーを理解するために、定延（2005）による「コミュニケーション」と「心内行動」という2つの視点で捉え直してみる。同じフィラーを何度も繰り返すといった、音声を発して間をつないでいるフィラーは「コミュニケーション」の現れ、産出に負荷がかかり焦っている状態で出現するフィラーは「心内行動」の現れと捉えることができる。そこで以下では、タスクごとに観察されたフィラーの特徴を記述し考察する。

【ベトナム人学習者のフィラーの特徴】

- いずれのタスクにおいてもフィラーの60%近くが「あー」である。
- 説明・描写をする際の始めに「あー」「あんー」が観察される。
- 依頼・断りの際にも「あー」が観察される。

【タイ人学習者のフィラーの特徴】

- いずれのタスクにおいてもフィラーの40%近くが「えーと」で、次が「あー」である。
- 説明・描写の際の「えーと」のほか応答場面

においても「えーと」が観察される。
・依頼場面で「あの」の使用が観察される。

【日本語母語話者のフィラーの特徴】
・いずれのタスクにおいても「えー」「えーと」は発話頭で、「えー」は間つなぎで使用される傾向がある。
・説明・描写をする際は接続詞や副詞が用いられ結束性のある話の展開をする傾向がみられる。説明・描写でフィラーはあまり観察されない。
・依頼・断りの際に「あの」が増加する。また「えーと、ちょっと」や「ちょっと…けど」のような緩和表現も加えられる。

ベトナム人学習者・タイ人学習者は、日本語のフィラーに存在しないフィラーを使用していた。特にいずれにも観察された「あー」の中には、発話の産出に負荷がかかって発せられた間つなぎ—心内行動とコミュニケーションの現れ—がみられた。川田（2010）によれば、日本語に存在するフィラーの「あー」には「修復」（p.47）や「気付き」（p.48）あるいは「応答的な表現」（p.51）の「あー」の使用があると説明されている。しかし、学習者の「あー」にはこのいずれにも該当しない使用が観察されたため、習得過程上の一種の中間言語的なフィラーであると考えられる。

日本語母語話者は、「えー」「えーと」は発話頭で、「えー」は間つなぎで使用する傾向がみられた。「えー」と「えーと」がこのように使用されるということには、何か使い分けがあるに違いない。日本語教科書では、これらはまとめて扱われることが多いが、実際にどのように使い分けられているのかを明らかにするために、スピーチと講演という２つの場面での自然発話を対象に、「コミュニケーション」と「心内行動」を視座とし検討する。

５．日本語母語話者の「えー」「えーと」「あのー」の置き換え分析

フィラーの使用には無秩序ではないパターンがあり、母語話者に誤用はみられないとされている。そこで、「えー」「えーと」「あのー」の実際の使用を観察し、その使い分けを検証する。調査対象としたのは、YouTubeで公開されていた、A.「結婚式のお祝いスピーチ」の例と、B.「講演会の講演」の例である。置き換えはいずれの例においても、①で「えー」を「えーと」に、②で「えー」を「あのー」に置き換えた。検証するのは、それぞれ冒頭の部分で観察されたフィラーで、各例の点線より上が元々の発話で、点線より下がフィラー置き換え後の発話である。各例でのフィラーの色は、緑色が元々のフィラー、黄色が置き換え後のフィラーを意味している。

Ａ．「結婚式のお祝いスピーチ」[5)]

①同僚のスピーチ「えー」と「えーと」

えー、今ご紹介いただきましたように、えーわたくし、〇〇君とは同期入社の××と申します
－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
えーと、今ご紹介いただきましたように、えーとわたくし、〇〇君とは同期入社の××と申します

②同僚のスピーチ「えー」と「あのー」

えー、今ご紹介いただきましたように、えーわたくし、〇〇君とは同期入社の××と申します
－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
あのー、今ご紹介いただきましたように、あのーわたくし、〇〇君とは同期入社の××と申します

Ａの例の①と②は、新郎の同僚がスピーチの始めに行った自己紹介である。この話者は、「えー」と話し始め、間つなぎでも「えー」を使用している。そこでまず①で、「えー」を「えーと」に置き換えてみる。「えー」は自然だが、「えーと」は不自然に感じられる。「えーと」で語られると、途端に、この話者は緊張のあまり話す内容を忘れてしまったのではないかと感じるからである。では、なぜそのように感じるのであろうか。小出（2009）の「えーと」の説明を以下に引用し、①の置き換え後の「えーと」が表出するコミュニケーションと心内行動について考察する。

「えーと」は「と」が加えられることによって、

「えー」という対他的な性質のフィラーから、その対他性を消去し（あるいは、弱め）、話し手の内部で行われている処理に目を向けさせるフィラーへと変容させられていることになる。（小出2009：29）

小出（2009）の「えーと」の説明から、コミュニケーションにおける間つなぎとしての対他性は「えー」で達成できるが、「えー」に「と」が加わることによって、「と」が対他性を消去し、話者が内部で処理していることがあからさまになる。そのため、結婚式場でこのスピーチを聞いた人には話者が話す内容を忘れてしまって思い出そうとしているといった心内行動が表出してしまうと解釈することができる。

次に②で、「えー」を「あのー」に置き換えてみる。「えー」はいずれも対他性のある間つなぎとして自然だが、1つ目の「あのー」と2つ目の「あのー」には差異がみられる。「あの」は「冒頭に加わることで丁寧さが増すことが多い」（定延2005：36、再掲）と述べていたように、1つ目の「あのー」については、式場のオーディエンスに対する丁寧さや配慮といった気持ちの表出と捉えることができる。一方、2つ目の「あのー」については、発話途中に挿入されていることから、話し方を検討している「あのー」が示唆される。そのため、結婚式のスピーチ冒頭の自己紹介で「あのー」と言って話し方を検討していることをあからさまにする使用は不自然である。次に講演会の講演について同様に考察する。

B．「講演会の講演」[6)]

③山中教授の講演「えー」「えーと」

> みなさん、えー、こんにちは、大学生とかですね、あのー、もっとおっきい、人たちの前で講義することはよくあるんですけれども、今日は私もドキドキしています、…（中略）…えー、私もですね、えー、つい、少し前、30年くらい前は、みなさんと同じ高校生でした
>
> －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
>
> みなさん、えーと、こんにちは、大学生とかですね、あのー、もっとおっきい、人たちの前で講義することはよくあるんですけれども、今日は私もドキドキしています、…（中略）…えーと、私もですね、えーと、つい、少し前、30年くらい前は、みなさんと同じ高校生でした

④山中教授の講演「えー」「あのー」

> みなさん、えー、こんにちは、大学生とかですね、あのー、もっとおっきい、人たちの前で講義することはよくあるんですけれども、今日は私もドキドキしています、…（中略）…えー、私もですね、えー、つい、少し前、30年くらい前は、みなさんと同じ高校生でした
>
> －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
>
> みなさん、あのー、こんにちは、大学生とかですね、えー、もっとおっきい、人たちの前で講義することはよくあるんですけれども、今日は私もドキドキしています、…（中略）…あのー、私もですね、あのー、つい、少し前、30年くらい前は、みなさんと同じ高校生でした

Bの例の③と④は、高校生への特別授業として講演された山中教授のスピーチである。まず③で、元々の「えー」を「えーと」に置き換えてみると、Aの例の①と同様に、「えー」の使用では高校生に向かって話していた山中教授の講演が、「えーと」になると対他性が消去され、話者の内部処理があからさまになるため、対他性のない「えーと」の使用では講演内容より「えーと」ばかりが聞こえてくるかもしれない。次に④で、「えー」を「あのー」に置き換えてみると、状況が講演会であることから、当然ある程度話す内容は頭の中にあると考えられるため、「えー」は自然だが、「えー」の代わりに「あのー」で話されると不安になるかもしれない。元の発話の1行目の終わりに「あの」の使用がみられる。この「あのー」を検討してみると、「大学生とかですね、<u>**あのー**</u>、もっとおっきい、人たちの前で講演することはよくあるんですけれども、今日は私も<u>**ドキドキしています**</u>」と言う発言が「あのー」とリンクする。「ドキドキしている」という表現は、慣れていない、躊躇があるといった心内行動のほか、高校生に対する配慮のような気持ちもこの「あのー」に含意されていると捉えることができる。もしこの「あのー」を「えー」に置き換えた場合、躊躇なく一方的に話しているように聞こえ、「ドキドキしている」という言葉も準備してきた言葉のように伝わるかもしれない。この「あのー」の使用は、定延（2005: 42-43）のいう、フィラーが「自分の心の状態を（中略）相手にあからさまにしている」実例として提示する。

以上の考察に基づき、図4-1に「えー」、図4-2に「えーと」、図4-3に「あのー」の機能を提示した。

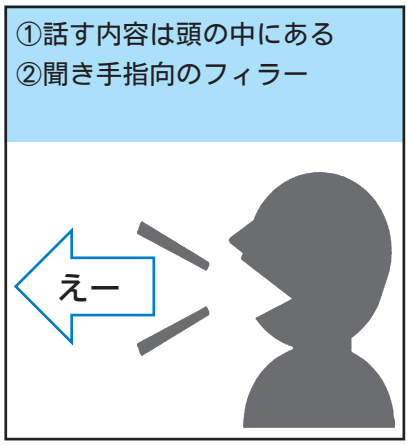

図4-1 「えー」

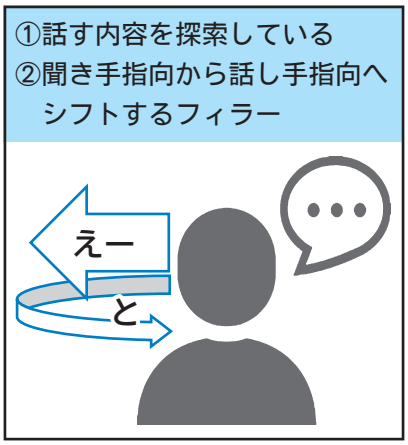

図4-2 「えーと」

図4-3 「あのー」

記述にあたり、定延（2005、2016）、小出（2009）、川田（2010）、萩原・池谷（2019、2021）を参照し、①コミュニケーション、②心内行動という視点から整理した。

5．まとめと今後の課題

本研究は、I-JASの発話タスクをデータとして、ベトナム人学習者・タイ人学習者・日本語母語話者のフィラーの使用傾向とそれぞれの特徴を検討し考察した。ベトナム人学習者の場合には、すべてのタスクに「あー」が多く、特に説明・描写をする際の始めに現れる「あー」「あんー」、依頼発話に現れる「あー」が特徴的であった。タイ人学習者の場合には、全てのタスクに「えーと」が多く、「えーと」で説明しようとする傾向がみられたが、依頼発話では「えーと」「あー」の次に「あの」が観察された点が特徴的であった。J-CATおよびSPOTの結果はフィラーの習得に比例していた。一方、日本語母語話者の場合には、フィラーを使用するか否かも含めてタスクによる使い分けがみられた。例えば、説明・描写ではフィラーがあまり使用されず接続詞や副詞が用いられていた。依頼・断りでは「あの」の使用や「えーと、ちょっと」「ちょっと…けど」といった緩和表現の使用がみられた。また「えー」「えーと」は発話頭で、「えー」は間つなぎで使用されていた。「えー」「えーと」「あのー」の運用パターンを知るために、結婚式・講演会のデータを基に分析し記述した。[7)]

小出（2009：13）は、「フィラーの働きを知ることは、言語を超えて、発話行動がどのように行われるかを知る手がかりになる」と指摘している。そこで本研究における今後の課題は、I-JASに収録されている他の言語を対象に、日本語習熟度の統制を図った上で同様の調査を進め、言語を超えた、フィラーによって表出される発話行動の解明をしていきたい。また、今回除外した「なんか」についても課題としたい。

調査資料

『多言語母語の日本語学習者横断コーパス International Corpus of Japanese as a Second Language（I-JAS）』中納言2.4.5、データバージョン2020.03

『筑波日本語テスト集 TTBJ（TSUKUBA TEST – BATTERY OF JAPNESE）』「得点の解釈－SPOT90－」（https://ttbj.cegloc.tsukuba.ac.jp/p1.html、2022.10.24閲覧）

参考文献

石黒圭編（2011）『会話の授業を楽しくするコミュニケーションのためのクラス活動40』スリーエーネットワーク.

金村久美・松田真希子（2020）『ベトナム人に日本語を教えるための発音ふしぎ大百科』ひつじ書房.

川田拓也（2010）『日本語フィラーの音声形式とその特徴について－聞き手とのインタラクションの程度を指標として－』（https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/120930/1/ybunk00525.pdf, 2022.10.26閲覧）

小出慶一（2009）「現代日本語の意味・用法の広がりに関する記述的研究-多機能化、フィラー、フィラー化」『日本アジア研究』第6号：1-37.

小西円（2018）「日本語学習者の習熟度別に見たフィラーの分析」『国立国語研究所論集』15：91-105.

迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬編（2020）『日本語学習者コーパスI-JAS入門－研究・教育にどう使うか－』くろしお出版.

定延利之（2005）『ささやく恋人、りきむレポーター－口の中の文化－』岩波書店

定延利之（2016）『コミュニケーションへの言語的接近』ひつじ書房

定延利之・田窪行則（1995）「談話における心的操作モニター機構－心的操作標識『ええと』と『あの（ー）』－」『言語研究』108：74-79.

野田尚史（2015）「日本語費母語話者の感動詞の不自然な運用」友定賢治編『感動詞の言語学】149-165、ひつじ書房.

萩原孝恵・池谷清美（2019）「ベトナム人学習者と日本語母語話者-日本語フィラーの使用方法の比較-」言語文化教育研究学会国際研究集会ポスター発表、2019.12.07.

萩原孝恵・池谷清美（2021）「あのう、フィラーを教えますか?」第33回タイ国日本語教育研究会年次セミナー口頭発表、2021.3.20.

松田真希子（2016）『ベトナム語母語話者のための日本語教育－ベトナム人の日本語学習における困難点改善のための提案－』春風社.

村田裕美子（2022）「日本語母語話者と日本語学習者のフィラーの違い－海外で学ぶ日本語学習者のフィラーの習得に着目して－」『日本語文法研究のフロンティア－母語話者の日本語と学習者の日本語の対照研究を中心に－』33-37、2022年2月26日シンポジウム、国立国語研究所共同研究プロジェクト.

山根智恵（2002）『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版.

Brown, Gillian（1977）*Listening to Spoken English,* London: Longman.

謝辞

本研究は、JSPS科研費JP19K00580の助成を受けたものである。

付記

本稿は、2019年12月にベトナムタンロン大学で開催された言語文化教育研究学会での発表と、2021年3月に開催された第33回タイ国日本語教育研究会年次セミナーでの発表内容をもとに発展させたものである。

注

1）中納言とは、「国立国語研究所で開発された、日本語のコーパスを検索するためのWebアプリケーション コーパス検索アプリケーション」のことである（国立国語研究所HPより）。

2）正式名は、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」（International Corpus of Japanese as a Second Language: I-JAS）で、通称I-JASと呼ばれている。

3）発話タスク6）の「絵描写」は、調査実施期間の途中から実施されることになったため、タイ語母語話者、英語母語話者の一部、ドイツ語母語話者、ロシア語母語話者、トルコ語母語話者のデータにはデータがないと説明されている（迫田編2020：41）。

4）筑波日本語テスト集TTBJ（https://ttbj.cegloc.tsukuba.ac.jp/p1.html, 2022.10.24閲覧）

5）「結婚式の名スピーチ（笑いも取れて参考になる）」冒頭部分筆者書き起こし（https://www.youtube.com/watch?v=-aUVjOKtDi4, 2022.10.26閲覧）

6）「第26回京都賞 高校生特別授業『人間万事塞翁が馬』京都大学iPS細胞研究所所長 山中伸弥教授（2010年11月16日）」冒頭部分筆者書き起こし（https://www.youtube.com/watch?v=ReKaknHHyTM, 2022.10.26閲覧）

7）2021年3月に開催された第33回タイ国日本語教育研究会年次セミナーの発表では、落語のフィラーについても分析し検証した。